もとす教道研会報　第41号 令和5年8月15日

発行所:岐阜県モラロジー連絡協議会
Tel／058－214－6224 Fax／6225

総会・講演会を開きました！

令和５年７月８日（土）午前10時過ぎ、もとす教育者道徳研究会総会並びに講演会を、北方町ホリモク生涯学習センター会議室Ａにおいて行いました。久しぶりに講演会を開催することが出来ました。講演者のお仲間にも加わっていただき今回は14名の会となりました。ご多用中にも拘らず参加していただき、誠に有難うございました。

まずは総会です。進行を大野会計が担当、挨拶と役員紹介を森山会長、参加者の自己紹介後、昨年度会務報告、今年度活動案・予算案を森山書記が全て行い、それぞれが拍手で承認されました。

森山会長の挨拶要旨「この会は旧本巣郡２市１町にお住まいかお勤めの方でつくる（生き方を考える）会です。各市町教育委員会はじめ校長会、岐阜もとすモラロジー事務所等多くの方々に支えられ、15年目を迎えました。公益財団法人モラロジー道徳教育財団の名称変更により、品性向上の自己研鑽、学校等の道徳教育支援、『三方よし』の経営学実践と３活動が明確になりました。『道徳で人と社会を幸せに』を合言葉に、地元の道徳教育振興に貢献したいと思います。学校の子どもたちや先生方の幸せのために、微力ながら頑張って参ります」

左から **大野会計、森山会長**

会場の様子

令和５年度　もとす教育者道徳研究会役員・理事

顧　問	林　明夫	北方町教育委員
会　長	森山　政紀	岐阜県モラロジー協議会事務局長
副会長	清水　季代	瑞穂市立本田小学校教頭
	武部八重子	本巣市立土貴野小学校教頭
	大塚　康正	北方町立南学園教頭
	神谷　肇	岐阜もとすモラロジー事務所顧問
書　記	森山　政紀	兼務
会　計	大野　琴美	本巣市子どもセンター所長
監　査	神原　重典	岐阜もとすモラロジー事務所顧問
	神谷　美里	岐阜もとすモラロジー事務所女性ク担当
理　事	土川　恵美	瑞穂市立本田小学校校長
	北川　真司	本巣市立土貴野小学校校長
	森　健治	岐阜もとすモラロジー事務所副代表

※今年度、北方町道徳部会顧問の理事枠は空席

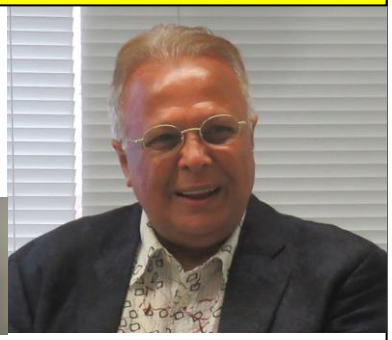
令和５年度　今後の主な活動計画

７月２８日（金）第６０回岐阜県道徳教育研究会岐阜会場
　　１３：００　岐阜市メディアコスモス みんなのホール
※申込連絡者の参加費（千円）を岐阜もとす事務所・本会が負担。
１２月２３日（土）役員・理事会　１７：００　北方町きらり会議室
２月１７日（土）実践研究会　　１０：００　北方町きらり会議室
※市町を代表して道徳教育の実践を発表してくださる方を１名募集します。自薦・他薦大歓迎（瑞穂市・本巣市・北方町から）
◎活動を報告する会報カラー版を年３回（今年は８月、９月、３月）発行・配布の予定です。

講演：外国から見た日本の高齢社会

元朝日大学経済学部教授

灰田　有（Ari Haida）先生

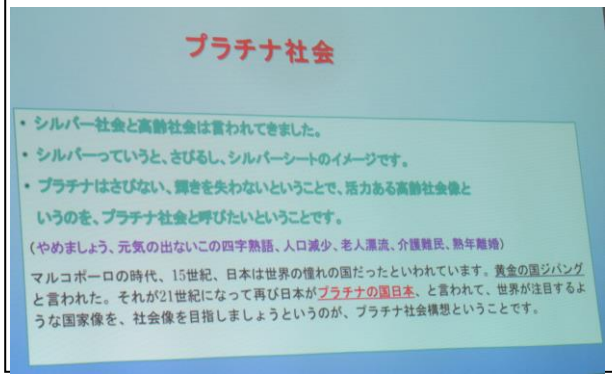


講演に先立ち林明夫顧問より灰田先生のご紹介をしていただきました。

「バングラデシュの生まれで、イギリスとアメリカへ留学された優秀な国際人です。その後日本文化に関心をお持ちになり、日本国籍を取得されるだけでなく、古民家を再生し美濃のまほろばのお店を出す等、日本人以上に日本文化を愛する灰田有さんです」

そして、穏やかな笑みをたたえた灰田有先生の登場です。

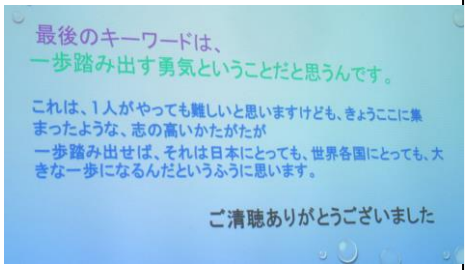
「私は、日本が高齢社会を考える時、問題点ばかり挙げるのを納得出来ません。高齢者をシルバー世代と呼びます。銀は錆びるし、いつも主役の座は金に奪われてしまいます。そこで私は、高齢者世代を『プラチナ世代』、高齢者が生き生きと過ごす社会を『プラチナ社会』と呼ぶことを提案します。プラチナは錆びないし、いつまでも輝きを失いません。『プラチナ社会』として、高齢社会の日本が活力にあふれるようにする方法を考えるようにしましょう。かつてマルコポーロの時代に日本が『黄金の国ジパング』と言われたように、21 世紀の今は『プラチナの国日本』として、世界が注目する国になりましょう。



みなさんは、『幸せ』を何で感じますか。ある人は何かをやりとげた達成感を挙げています。日々の充実感を挙げる人もいます。安心出来る居場所があることも大切な要素ですね。

2010 年『エコノミスト』に『外国から日本がどう見られているか』の特集記事が載りました。『日本は子供が重責を背負っている』という論調でした。私は、私の目で見た日本の高齢社会をアメリカ・ドイツ・中国と比べながらお話をさせていただきます。

アメリカは医療費も高く、個人の責任が大きく左右します。日本が家族の世話をベースに社会制度で補い合おうという方向とは対照的に思います。但し孤立感・孤独感を感じる割合が少ないところは見習うべきかも知れません。ドイツは日本と似ているところが多いようです。日本に比べて退職年齢が早いのですが、みんなが集まって一緒に楽しむ機会が多いようです。ある小さな村を訪ねた時にも、喫茶店や酒場だけでなく、公共施設の充実ぶりを目にしました。中国は家族に見てもらうという意識が日本以上に今はまだ強いようです。



疎外感が無いよう高齢者同士で話し合う『傾聴ボランティア』は大事です。

自分の殻に閉じこもらないで一歩外に踏み出す。この勇気をもった志の高い人になって、歩んで行きましょう」

【いただいたアンケートより】

「プラチナ社会という云い方、とてもよいと思いました。日本の様々な課題を感じることが出来ました。特に、ボランティア活動のこと、外国人の方の受け入れ方について考えたいです（匿名さん）」

「とても興味深いお話をありがとうございました。私事ですが、今年 60 歳を迎えるので、正にこれからどう生きるのかを考えさせられました。アメリカやドイツの事例はとても印象深く、現実を感じました。これからの高齢社会を変えていくのは『私の一歩』であると励まされた気がします（匿名さん）」

「大変勉強になり、刺激となりました。拝聴でき、幸せです。充実した時間をありがとうございました（北川真司理事）」

終了後、有志が美濃のまほろばで昼食会をさせていただきました。